

石川の歴史探訪

昨年、能登半島における1月の震災および9月の豪雨災害でお亡くなりになられた

方々に、謹んでお悔やみを申し上げますとともに被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。皆様が一日も早く平穏な生活に戻れますことを心よりお祈りしております。

被災地の復興とともに、能登半島に再び活気あふれ、古（いにしえ）より紡がれてきた人々の『命』や『絆』、『願い』や『想い』を抛り所として引き継がれてきたすべての祭礼や神事が再開されますことを祈念して、本号では七尾市（能登半島）の伝統的な祭事、観光名所を特集しました。

— 能登の伝統文化の復活への願いをこめて —

能登一の春の大祭 せいはいくさい 青柏祭

七尾市の青柏祭は、昭和58年（1983年）に「青柏祭の曳山行事」として、国の重要無形民俗文化財に指定されています。さらに、平成28年（2016年）には、ユネスコの無形文化遺産保護条約「人類の無形文化遺産の代表的一覧表」に「山・鉦・屋台行事」（18府県33件の一つ）として登録されました。能登最大の礼祭である青柏祭は、創建1300年の歴史を持つ大地主神社（おおとこぬしじんじゃ、別名：山王神社）で、毎年5月3日から5日までの期間に行われ、鍛冶町・府中町・魚町の3つの「山町（やまちょう）」から3台の「でか山」と呼ばれる曳山が奉納される春祭りです。曳山は、高さ12m、車輪直径2m、重さにして約20トンという巨大なもので、山車としては国内最大といわれています。

5月3日、午後9時頃、鍛冶町（宵山、よいやま）の曳山は清祇い（きよはらい）の後、大地主神社に向け出発し、午後11時頃に神社に到着します。5月4日、午前0時、府中町（朝山、あさやま）では印鏡神社（いんにやくじんじゃ）で清祇いが行われた後、午前1時頃に神社前より曳山が出発し、午前7時頃、大地主神社に到着します。午前8時頃になると魚町（本山、ほんやま）の曳山が大地主神社へと向かい、昼頃に大地主神社に到着し、3台の曳山が勢揃いします。その後、大地主神社の本殿において、天下太平と五穀豊穡を祈願する本儀が執り行われます。

青柏祭のいわれは、神様に捧げる神饌（しんせん、供物）を青い柏の葉に盛って供えることに由来するとされています。青柏祭のさまざまな神事の一つとして、大地主神社の拝殿と鳥居に間の参道に、四方を注連縄（しめなわ）で囲った結界が張られます。この注連縄を宮司が刀で断つと、神饌を供る祭壇がこの結界が張られていた拝殿側に設けられ、米や赤飯、竹の子、大根、お酒などさまざまな神饌が供えられます。大地主神社の一連の神事が終わると、午後2時頃、魚町、府中町、鍛冶町の曳山が順次、大地主神社から曳き出され、各々の山町に戻っていきます。

最終日 5月5日の裏山では、お昼前に3台の曳山が再び曳き出され能登食祭市場、七尾駅前、七尾市内御祓川の仙対橋で勢揃いした後、夕刻にそれぞれの山町に帰っていきます。

青柏祭の開催中は、七尾駅北の交差点から食祭市場までの川沿いの県道が歩行者天国となり、100台以上の屋台が出店され、屋台ならではの食べ物や飲み物などを楽しむ、多くの人で大変賑わいます。

金沢駅から七尾駅までは、特急「能登かがり火」で約1時間ほどです。

令和6年の青柏祭では、1月1日の能登半島地震により、曳山行事（でか山巡行）は中止されましたが、神事は復活の願いをこめて厳かに執り行われました。



高さ12mの“でか山”



鍛冶町・府中町・魚町の3台の“でか山”が勢揃い（令和5年5月4日撮影）



青柏祭の本儀が執り行われる大地主神社の本殿



参道に注連縄で張られた結界を宮司が太刀で断ち切る瞬間



輪島塗や加賀友禅をイメージした外観の観光列車「花嫁のれん」は、金沢駅～羽咋駅～七尾駅～和倉温泉駅間を運行し、車内ではスイーツセット、和軽食セット、ほろよいセットなどの食事が楽しめます。

令和6年能登半島地震により、終日運転取り止めていましたが、令和7年3月6日～3月7日山陽地域-金沢、3月7日～8日京阪神地域-金沢の観光ツアーの中で、金沢-和倉温泉および七尾-金沢間で団体専用臨時列車として1年3ヶ月ぶりに運転を再開しました。今後の、運行状況はJR西日本のホームページでご確認ください。 <https://trafficinfo.westjr.co.jp/hokuriku.html>



結果が張られていた参道に祭壇が設けられ、さまざまなお供物が供えられる



七尾城跡

七尾城は、能登の守護畠山氏が戦国時代に築いた山城で、上杉謙信による2度の侵攻で落城するまでの約170年間にわたり能登畠山家の栄華を支えました。城跡巡りのコースには、本丸駐車場から直接本丸へと向かう最短ルートと三の丸、二の丸、九尺石などを經由して、本丸へと向かう2つのルートがあります。三の丸、二の丸、を經由するルートは結構な坂や階段がある山道ですので、歩きやすい靴や服装をご用意ください。白山の麓には七尾城史資料館があり、館内では当時の七尾城を再現した復元CG映像を視聴したり、七尾城跡や城下から出土した品々を観覧できます。



三の丸跡



二の丸跡



九尺石



本丸に向かう階段と石垣



七尾城本丸跡 ©石川県観光連盟



七尾城跡から望む七尾湾



のと鉄道七尾線の能登鹿島駅は、能登のさくらの名所として知られ、さくら駅の愛称で呼ばれる。七尾駅から穴水行きの鉄道で約30分。 「写真提供：石川県観光連盟」

令和6年1月能登半島地震により被災した、のと鉄道七尾線は、4月6日（土）に能登中島～穴水駅間が復旧、再開したことにより、「七尾～穴水駅」の全区間で運行再開しました。

【文・写真：遠藤】